

バイオガス、天然ガス、重油の混焼により、 CO₂排出量を削減

～三島工場石灰焼成キルンの重油使用量を低減～

大王製紙株式会社（住所：東京都千代田区）は、三島工場（愛媛県四国中央市）の石灰焼成キルン^{*1}において、バイオガス^{*2}、天然ガスおよび重油の混焼を実現しました。これにより、同設備の重油使用量を約40%（18,000KL/年）削減し、CO₂排出量を34,000t-CO₂/年（大王製紙グループCO₂排出総量の約1%相当）削減します。

石灰焼成キルンでは、2021年1月よりクラフトパルプ製造工程で発生する排水からバイオガスを抽出※1し、重油代替（使用量の一部約5,000KL/年相当）として使用することでCO₂排出量の削減（15,000t-CO₂/年）を進めてまいりました。

この度、大阪ガス株式会社（住所：大阪府中央区）の天然ガスと重油の混焼を実現するガスアトマイズ燃焼技術^{*3}を使用することにより、バイオガス、天然ガス、重油の混焼を実現することができ、重油使用量をさらに削減（約13,000KL/年相当）し、CO₂排出量を削減（19,000t-CO₂/年）します。

当社は、2021年5月に「大王製紙グループ サステナビリティ・ビジョン」を策定し、2050年度のカーボンニュートラル実現と2030年度にCO₂排出量を2013年度対比46%削減することを目標としています。

今後も再生可能エネルギー等を有効活用しながら、化石燃料およびCO₂排出量の削減に努め、当社グループ サステナビリティ・ビジョンのミッションである「やさしい未来」の実現に向けて、地球温暖化対策を推進してまいります。

※1 <https://www.daio-paper.co.jp/wp-content/uploads/n180925.pdf>

- *1 クラフトパルプ製造工程で使用する石灰を焼成して再利用する設備。
- *2 有機物を発酵させたときに発生するメタンを主成分とするバイオマス由来のガス。
- *3 重油を燃焼させる際の重油噴霧媒体として天然ガスを使用する技術。噴霧媒体には高圧空気や蒸気を利用することが一般的ですが、これらに代わって天然ガスを利用することにより高効率な燃焼を実現する。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

大王製紙株式会社 エネルギー企画部

紺家(こんや)

TEL：0896-23-9068